

授業計画(シラバス)

科目名	人間の尊厳と自立		指導担当者名	三本木 茜	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:○		演習:	実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・古い、病、障害などにより生活の支障を生じている人々への生活支援を行う際の尊厳の保持と自立の基本を講義する。 ・福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理的な知識を養う。 ・事例を通して介護における尊厳の保持と自立支援の方法について演習を通してその方法を明らかにする。 ・「人間」の多角的理解(自己理解、他者理解)についてを説明できる。 ・人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支えることができる。 ・介護福祉における倫理的課題への対応能力について基礎となる能力を養う。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座1 第2版 人間の理解(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	人間の尊厳と利用者主体	1. 人間を理解すること 2. 人間の尊厳という理念 3. 人間の尊厳と利用者主体		
	2	人権思想の潮流とその具現化	1. 人権思想の潮流 2. 人権思想の具現化 3. 基本的人権・自由権と生存権		
	3	人権や尊厳に関する日本の諸規定	1. 幸福追求権(日本国憲法第13条と公共の福祉) 2. 生存権(日本国憲法第25条) 3. 社会福祉法・介護保険法・障害者総合支援法		
	4	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷Ⅰ	1. エリザベス救貧法・新救貧法 2. 貧困と社会福祉援助 3. 戦争と優勢思想		
	5	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷Ⅱ	1. 世界人権宣言 2. 貧困と様々な社会福祉援助		
	6	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷Ⅲ	1. ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョン 2. QOL 3. 生命倫理		
	7	人権尊重と権利擁護Ⅰ	1. 1人の人間としての利用者の権利 2. 利用者の権利侵害が起こる状況		
	8	人権尊重と権利擁護Ⅱ	1. 権利侵害の背景 2. 権利擁護の視点 3. エンパワメント		
	9	自立の概念の多様性	1. いろいろな視点からみた自立 2. 画一的ではない自立 3. ライフサイクルからみた自立		
	10	自立とは	1. 自立をするのはだれか 2. 自己選択・自己決定 3. 自律・精神的自立		
	11	介護を必要とする人々の自立と自立支援	1. 介護を必要とする人の自立 2. 工夫的自立への支援 3. 自立への意欲と動機づけ		
	12	介護における自立支援について学ぶ	1. 自立支援の考え方(残存機能) 2. 自立と依存と選択 3. 自立支援とICF		
	13	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の関係性	1. 人格 2. 尊厳を損なう介護とは 3. 尊厳を守るための介護とは		
	14	介護における自立支援の実践	1. 尊厳を守る介護の中心にある自立支援 2. 利用者の主体性を大切に声かけ 3. 利用者の自立支援		
	15	まとめ	まとめ		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	介護基礎論 I			指導担当者名	三本木 茜
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・尊厳や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解し、人間観を養う。 ・介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としてあるべき態度を養う。 ・介護に関連する施策の概要や介護福祉の基本となる理念を理解する。 ・社会福祉士及び介護福祉士法の概要や、介護福祉士が守るべき義務規定の意味を学ぶ。 ・介護福祉士を支える職能団体や、知識・技術を高める生涯研修等の活動について理解する。 ・日本介護福祉士会の倫理綱領から、介護福祉士の専門性と職業倫理を学ぶ。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座3 第2版 介護の基本 I (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	介護福祉の基本となる理念	1. 介護の成り立ち 2. 専門職による「介護」が誕生した社会的な背景		
	2	介護福祉の基本となる理念	1. 介護の歴史①		
	3	介護福祉の基本となる理念	1. 介護の歴史②		
	4	介護福祉の基本となる理念	1. 現在の日本における介護問題		
	5	介護福祉の基本となる理念	1. 介護福祉の理念とは 2. 尊厳を支える介護		
	6	介護福祉の基本となる理念	1. 「尊厳を支える介護」について考える		
	7	介護福祉の基本となる理念	1. 自立を支える介護		
	8	介護福祉の基本となる理念	1. 「自立を支える介護」について考える		
	9	介護福祉士の役割と機能	1. 介護福祉士が行うべき「生活支援」とは		
	10	介護福祉士の役割と機能	1. 事例から「個別ケア」について考える		
	11	介護福祉士の役割と機能	1. 介護福祉士の活動の場と役割		
	12	介護福祉士の役割と機能	1. 「地域包括ケアシステム」から住んでいる地域の支援を考える		
	13	介護福祉士の役割と機能	1. 災害時に求められる介護福祉士の役割		
	14	介護福祉士の役割と機能	1. 社会福祉士及び介護福祉士法		
	15	介護福祉士の役割と機能	1. 「心身の状況に応じた介護」について考える		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	介護基礎論 I			指導担当者名	三本木 茜	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・尊厳や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解し、人間観を養う。 ・介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としてあるべき態度を養う。 ・介護に関連する施策の概要や介護福祉の基本となる理念を理解する。 ・社会福祉士及び介護福祉士法の概要や、介護福祉士が守るべき義務規定の意味を学ぶ。 ・介護福祉士を支える職能団体や、知識・技術を高める生涯研修等の活動について理解する。 ・日本介護福祉士会の倫理綱領から、介護福祉士の専門性と職業倫理を学ぶ。 					
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座3 第2版 介護の基本 I (中央法規)					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。					
学期	ターム	項目	内容・準備資料等			
授業計画 前期	16	介護福祉士の役割と機能	1. 「義務規定」から介護福祉士が行う介護について考える			
	17	介護福祉士の役割と機能	1. 介護福祉士養成カリキュラムの変遷 2. 求められる介護福祉士像			
	18	介護福祉士の役割と機能	1. 「求められる介護福祉士像」から介護福祉士に求められる役割を考える 2. 介護人材の中核となるリーダーとしての役割			
	19	介護福祉士の役割と機能	1. 介護福祉士を支える団体			
	20	介護福祉士の役割と機能	1. 食生活における多様性の尊重とその支援技術			
	21	介護福祉士の役割と機能	1. 嗜好品などのニーズに対応できる支援のあり方			
	22	介護福祉士の役割と機能	1. 介護福祉士としての身支度と身だしなみ			
	23	介護福祉士の役割と機能	1. 介護福祉士としての余暇活動への支援			
	24	介護福祉士の倫理	1. 介護実践における倫理			
	25	介護福祉士の倫理	1. 倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応			
	26	介護福祉士の倫理	1. 日本介護福祉士会の倫理綱領			
	27	介護福祉士の倫理	1. 利用者の尊厳を保持した倫理的介護実践			
	28	介護福祉士の倫理	1. 「日本介護福祉士会の倫理綱領」から専門職の態度を考える			
	29	介護福祉士の倫理	1. 高齢者虐待とその背景について考える			
30	まとめ	まとめ				
31						
履修上の留意点						
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 						

授業計画(シラバス)

科目名	介護基礎論Ⅱ		指導担当者名	三本木 茜	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援におけるエンパワメントやICFの視点を介護の実践に応用することができる。 ・生活の多様性や社会とのかかわり、介護サービスを理解し、生活の個別性に対応することができる。 ・自立支援におけるエンパワメントやICF、リハビリテーションについて理解する。 ・生活の特性を理解し、その人らしさや多様性のある生活について学ぶ。 ・介護福祉を必要とする人の生活を支えるサービスと特性について理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)</p>				
使用教材	<p>最新・介護福祉士養成講座3 第2版 介護の基本Ⅰ(中央法規) 最新・介護福祉士養成講座4 第2版 介護の基本Ⅱ(中央法規)</p>				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	自立に向けた介護	1. 自立支援の考え方		
	2	自立に向けた介護	1. 利用者の意思決定を支援するために必要なかかわり方		
	3	自立に向けた介護	1. ICFとストレングスの視点		
	4	自立に向けた介護	1. 自立支援とリハビリテーション		
	5	自立に向けた介護	1. 生活を通したリハビリテーション(生活リハビリ)		
	6	自立に向けた介護	1. 自立支援と介護予防		
	7	自立に向けた介護	1. 生活意欲と活動①		
	8	自立に向けた介護	1. 生活意欲と活動②		
	9	介護福祉を必要とする人の理解	1. 私たちの生活の理解		
	10	介護福祉を必要とする人の理解	1. 介護福祉を必要とする人たちの暮らし		
	11	介護福祉を必要とする人の理解	1. 介護福祉を必要とする人たちの生きてきた時代背景を知る①		
	12	介護福祉を必要とする人の理解	1. 介護福祉を必要とする人たちの生きてきた時代背景を知る②		
	13	介護福祉を必要とする人の理解	1. 介護福祉を必要とする人たちの生きてきた時代背景を知る③		
	14	介護福祉を必要とする人の理解	1. 事例から介護福祉士としてかかわる視点を整理する		
	15	介護福祉を必要とする人の理解	1. 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	介護基礎論Ⅱ			指導担当者名	三本木 茜
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				実務経験: 有
開講時期	後期		対象学科学年	介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援におけるエンパワメントやICFの視点を介護の実践に応用することができる。 ・生活の多様性や社会とのかかわり、介護サービスを理解し、生活の個別性に対応することができる。 ・自立支援におけるエンパワメントやICF、リハビリテーションについて理解する。 ・生活の特性を理解し、その人らしさや多様性のある生活について学ぶ。 ・介護福祉を必要とする人の生活を支えるサービスと特性について理解する。 				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座3 第2版 介護の基本Ⅰ(中央法規) 最新・介護福祉士養成講座4 第2版 介護の基本Ⅱ(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	介護福祉を必要とする人の理解	1. 生活のしづらさの理解とその支援 2. 生活のしづらさを解消する介護福祉士の視点		
	17	介護福祉を必要とする人の理解	1. 家族介護者の理解と支援 2. 認知症の人の列車事故から、家族介護者が抱える問題を考える		
	18	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1. 高齢者のためのフォーマルサービス(居宅サービス)		
	19	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1. 高齢者のためのフォーマルサービス(施設サービス)		
	20	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1. 高齢者のためのフォーマルサービス(地域密着型サービス)		
	21	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1. 高齢者のためのフォーマルサービス(地域支援事業)		
	22	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1. 高齢者のためのフォーマルサービスについて、事例から考える		
	23	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1. 障害者のためのフォーマルサービス		
	24	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1. 生活を支えるインフォーマルサービス		
	25	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1. 地域におけるインフォーマルサービスの役割を考える		
	26	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1. 地域連携の意義と目的 2. 地域連携にかかわる機関の理解		
	27	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1. 事例から地域連携に必要な介護福祉士の役割を考える		
	28	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1. 生活の中の様々なマーク(ピクトグラム)		
	29	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1. すべての人が住みやすい環境について考える		
30	まとめ	まとめ			
31					
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	日常生活支援技術 I		指導担当者名	千葉 智子・大久保 悦美	
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり(千葉) 介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり(大久保)			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。 ・ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援を理解する。 ・住まいの多様性を理解するとともに、居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。 ・介護支援ロボットを含め、福祉用具を活用する意義やその目的を理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	<p>最新・介護福祉士養成講座6 第2版 生活支援技術 I (中央法規) 最新・介護福祉士養成講座7 第2版 生活支援技術 II (中央法規)</p>				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	介護福祉士が行う生活支援技術の意義・目的	1. オリエンテーション、日常生活支援技術とは 2. 生活支援の基本的な考え方		
	2	生活支援の理解	1. 生活支援と介護過程		
	3	居住環境の整備	1. 住まいの役割と機能 2. 生活空間		
	4	居住環境の整備	1. 快適な室内環境 2. 介護実習室における物品の管理方法の理解(衣類の畳み方等の管理を含む)		
	5	居住環境の整備	1. 安全に暮らすための生活環境 2. 居住環境の整備における多職種との連携		
	6	介護福祉職としての身だしなみ	1. 介護福祉職としての身だしなみを整える意義と目的 2. 手洗い等の衛生管理について		
	7	自立に向けた身じたく	1. 自立に向けた身じたくとは 2. 自立した身じたくとしての着介護(座位)		
	8	自立に向けた身じたく	1. 自立に向けた身じたくの介護(手浴)		
	9	自立に向けた移動の介護	1. 自立した移動とは 2. 移動・移乗の基本的理解(ボディメカニクスについて)		
	10	自立に向けた移動の介護	1. 介護支援ロボットの活用方法		
	11	休息・睡眠環境を整える	1. ベッドメイキングを行い、休息・睡眠環境を整える		
	12	休息・睡眠環境を整える	1. ベッドメイキングを行い、休息・睡眠環境を整える		
	13	移動・移乗の介助における基本的な視点	1. 移動・移乗の介助における基本的な視点 2. 関節可動域の理解、麻痺の障害部位		
	14	体位変換	1. 自立度別身体の移動(上方移動、水平移乗、側臥位) 2. 上方移動における介護の留意点		
	15	休息・睡眠環境を整える	1. ベッドメイキングを行い、休息・睡眠環境を整える		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	日常生活支援技術 I		指導担当者名	千葉 智子・大久保 悦美	
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり(千葉) 介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり(大久保)			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。 ・ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援を理解する。 ・住まいの多様性を理解するとともに、居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。 ・介護支援ロボットを含め、福祉用具を活用する意義やその目的を理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	<p>最新・介護福祉士養成講座6 第2版 生活支援技術 I (中央法規) 最新・介護福祉士養成講座7 第2版 生活支援技術 II (中央法規)</p>				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	16	ベッド上での衣服着脱の介助	1. 体位変換の技術をもとに、ベッド上での一部介助び方法が理解できる		
	17	ベッド上での衣服着脱の介助	1. 体位変換の技術をもとに、ベッド上での一部介助・全介助の方法が理解できる		
	18	体位変換 起き上がり～端座位	1. 自立度別起き上がりから端座位(長坐位から端座位) 2. 起き上がりから端座位への介護の留意点		
	19	体位変換 起き上がり～端座位	1. 自立度別起き上がりから端座位(側臥位から端座位) 2. 起き上がりから端座位への介護の留意点		
	20	安楽な姿勢・体位の保持	1. 褥瘡の予防について 2. 安楽な体位におけるアセスメントの視点		
	21	安楽な体位の保持のための介護の実際	1. 体位別の介護の手順 2. 体位を保持するための道具・用具		
	22	車いすの介助	1. 車いすの基本構造 2. 車いすの基本的な使い方		
	23	ベッドから車いすへの移乗の介助	1. ベッドから車いすへの移乗介助の基本的理解 2. 麻痺のある方利用者の介助		
	24	ベッドから車いすへの移乗の介助	1. ベッドから車いすへの移乗介助の基本的理解 2. 麻痺のある方利用者の介助		
	25	自立度別車いすの介助	1. ベッド⇄車いすの介助 2. 段差・坂道・エレベーター等の介助		
	26	自立度別車いすの介助	1. ベッド⇄車いすの介助 2. 段差・坂道・エレベーター等の介助		
	27	福祉用具の意義と活用	1. ベッド・ベッド周り・リフト、移乗器等 2. 車いす・歩行補助用道具等		
	28	歩行介助	1. 歩行介助におけるアセスメントの視点 2. 自立度別歩行介助		
	29	ベッドから車いすへの移乗の介助	1. 麻痺のある方利用者の介助(事例を通して演習)		
30	他職種の役割と協働	1. 移動・移乗の介護に関する他職種の役割 2. よりよい生活支援に向けて、他職種と連携することの意味			
31					
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	日常生活支援技術Ⅱ			指導担当者名	千葉 智子・大久保 悦美
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり(千葉) 介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり(大久保)			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:	演習:○		実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。 ・介護支援ロボットを含め、福祉用具を活用する意義やその目的を理解する。 ・健康を維持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援を理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	<p>最新・介護福祉士養成講座6 第2版 生活支援技術Ⅰ(中央法規) 最新・介護福祉士養成講座7 第2版 生活支援技術Ⅱ(中央法規)</p>				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	自立に向けた身じたくの介護	1. 洗顔、洗髪・整髪、ひげの手入れ		
	2	自立に向けた身じたくの介護	1. 洗顔、洗髪・整髪、ひげの手入れ		
	3	自立に向けた身じたくの介護	1. 爪・耳の手入れ		
	4	自立に向けた身じたくの介護	1. 化粧・整髪介護		
	5	自立に向けた身じたくの介護	1. 座位・臥位での口腔ケア		
	6	自立に向けた食事の介護	1. 食事の意義と目的		
	7	自立に向けた食事の介護	1. 自立に向けた食事の介護 2. 食欲をそそる献立、食事の形態(とろみ食、介護食等)		
	8	自立に向けた食事の介護	1. 介護の基本原則にのっとった食事の介護 2. 利用者の状態に応じた食事の介護(座位)		
	9	自立に向けた食事の介護	1. 介護の基本原則にのっとった食事の介護 2. 利用者の状態に応じた食事の介護(臥位)		
	10	自立に向けた食事の介護	1. 食事の介護における多職種(言語聴覚士)との連携 2. 誤嚥の予防のための支援(嚥下体操等)		
	11	自立に向けた食事の介護	1. 食事の介護における多職種(言語聴覚士)との連携 2. 利用者への摂食指導と、介護福祉職や家族への食事介助の指導について		
	12	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	1. 自立した入浴・清潔保持とは 2. 自立した入浴の一連の流れ		
	13	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	1. ベッド上での洗髪の介護		
	14	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	1. ベッド上での洗髪の介護		
	15	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	1. 全身清拭の介護		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	日常生活支援技術Ⅱ			指導担当者名	千葉 智子・大久保 悦美
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり(千葉) 介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり(大久保)			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。 ・介護支援ロボットを含め、福祉用具を活用する意義やその目的を理解する。 ・健康を維持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援を理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	<p>最新・介護福祉士養成講座6 第2版 生活支援技術Ⅰ(中央法規) 最新・介護福祉士養成講座7 第2版 生活支援技術Ⅱ(中央法規)</p>				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	1. 全身清拭の介護		
	17	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	1. 入浴の介助(入浴の準備～個浴での介助方法)		
	18	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	1. 入浴の介助(入浴の準備～特殊浴槽(機械浴)での介助方法)		
	19	自立に向けた排泄の介護	1. 自立した排泄とは 2. 自立した排泄の一連の流れ		
	20	自立に向けた排泄の介護	1. 車いす利用者の介助		
	21	自立に向けた排泄の介護	1. おむつでの排泄の介助		
	22	自立に向けた排泄の介護	1. おむつでの排泄の介助		
	23	自立に向けた排泄の介護	1. 尿器・差し込み便器の排泄の介助 2. 差し込み便器の種類		
	24	自立に向けた排泄の介護	1. 尿器・差し込み便器の排泄の介助 2. 差し込み便器の種類		
	25	自立に向けた排泄の介護	1. ポータブルトイレでの排泄の介助方法		
	26	自立に向けた排泄の介護	1. ポータブルトイレでの排泄の介助方法		
	27	自立に向けた排泄の介護	1. ポータブルトイレでの排泄の介助方法		
	28	休息・睡眠の介護	1. 休息・睡眠の意義と目的 2. 快適な睡眠の一連の流れ 3. 安眠を阻害する要因 4. 安眠をうながす介護をするために介護福祉職がすべきこと		
	29	休息・睡眠の介護	1. 安眠をうながす介護(足浴・手浴等)		
30	休息・睡眠の介護	1. 休息・睡眠環境を整える 2. ベッドメイキング(一人での行う方法)			
31					
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	介護過程 I		指導担当者名	三本木 茜	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:○		演習:	実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実践における介護過程の意義をふまえ、アセスメントの視点を理解する。 ・介護を必要とする人の望む生活の実現に向けた生活課題の分析を行うことができる。 ・生活支援における介護過程の意義・目的について理解する。 ・ICFの考え方を活用した情報収集の方法を理解する。 ・アセスメントにおいて他科目で学んだ知識を統合する必要性を理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座9 第2版 介護過程 (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	介護過程の意義の理解	1. 介護過程とは 2. 生活支援における介護過程の必要性		
	2	介護過程の意義の理解	1. 介護過程の全体像		
	3	介護過程の意義の理解	1. イラストから支援に必要な知識や技術を考える		
	4	介護過程の意義の理解	1. イラストから支援に必要な知識や技術を考える		
	5	アセスメントの基礎的理解	1. 介護過程とICF		
	6	アセスメントの基礎的理解	1. アセスメント(情報収集) ・情報収集の意義と方法		
	7	アセスメントの基礎的理解	1. アセスメント(情報収集) ・ICFを活用した情報収集		
	8	アセスメントの基礎的理解	1. アセスメント(解釈・関連づけ・統合化) ・情報の解釈・関連づけ・統合化とは		
	9	アセスメントの基礎的理解	1. アセスメント(解釈・関連づけ・統合化) ・事例を用いて情報の解釈・関連づけ・統合化(情報分析)を行う		
	10	アセスメントの基礎的理解	1. アセスメント(課題の明確化、ニーズの明確化) ・課題及びニーズの明確化とは ・ニーズの考え方と表現の仕方		
	11	アセスメントの基礎的理解	1. アセスメント(課題の明確化、ニーズの明確化) ・事例を用いて課題及びニーズの明確化を行う		
	12	アセスメントの基礎的理解	1. 事例を用いたアセスメントの実践		
	13	アセスメントの基礎的理解	1. 事例を用いたアセスメントの実践		
	14	アセスメントの基礎的理解	1. 事例を用いたアセスメントの実践		
	15	まとめ	まとめ		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	介護過程Ⅱ		指導担当者名	三本木 茜	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする人の望む生活の実現に向けた介護過程の展開により、根拠に基づく介護実践を考えることができる ・個別ケア提供における介護計画の意義や立案方法について理解する ・介護過程における実施や記録の意義及び留意点について理解する ・介護過程における評価の意義や個別ケアにおける評価の重要性を理解する 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座9 第2版 介護過程(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	介護計画の基礎的理解	1. 介護計画とは ・ケアプランと介護計画の関係性 2. 介護計画に含まれる要素と留意点		
	2	介護計画の基礎的理解	1. 介護目標の設定 ・長期目標と短期目標、目標の優先順位 ・介護内容の決定		
	3	アセスメント及び介護計画のまとめ	1. 事例を用いたアセスメント、介護計画の立案 ・ICFを活用した情報収集		
	4	アセスメント及び介護計画のまとめ	1. 事例を用いたアセスメント、介護計画の立案 ・情報の解釈・関連づけ・統合化(情報の分析)		
	5	アセスメント及び介護計画のまとめ	1. 事例を用いたアセスメント、介護計画の立案 ・情報の解釈・関連づけ・統合化 ・課題及びニーズの明確化		
	6	アセスメント及び介護計画のまとめ	1. 事例を用いたアセスメント、介護計画の立案 ・介護計画の立案		
	7	アセスメント及び介護計画のまとめ	1. 事例を用いたアセスメント、介護計画の立案 ・介護計画の立案		
	8	ケアカンファレンスの基礎的理解	1. ケアカンファレンスの意義・目的・方法		
	9	ケアカンファレンスの基礎的理解	1. ケアカンファレンス ・作成した介護計画を用いたカンファレンスの実践		
	10	介護の実施の基礎的理解	1. 介護の実施とは 2. 実施における留意点		
	11	介護の実施の基礎的理解	1. 実施記録の意義・目的・要素 2. 情報を扱う際の留意事項 3. 記録を書くときの留意事項		
	12	介護の実施の基礎的理解	1. 実施記録の適切な書き方について理解する		
	13	介護過程の評価の基礎的理解	1. 評価の意義と目的 2. 評価の内容と方法		
	14	介護過程の評価の基礎的理解	1. 事例を用いた評価表の作成、考察		
	15	まとめ	1. 介護過程プロセスのまとめ		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅰ		指導担当者名	大久保 悦美	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習に向けての準備や心構え、実習施設について理解し、他科目での学びと介護実習との関連性が理解できる。 ・「実習Ⅰ」と「実習Ⅱ」の枠組みについて理解する。 ・実習の目的や意義について理解する。 ・実習先・施設の体系、種類について理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座10 第2版 介護総合演習・介護実習 (中央法規) 福祉の職場のマナーガイドブック(全国社会福祉協議会)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	介護総合演習の位置づけ 介護総合演習の目的	1. 介護福祉士養成教育の全体像 2. 「介護総合演習」と「介護実習指導」 3. 介護総合演習の五つの目的を理解する		
	2	介護実習の意義と目的 介護実習の種類	1. 介護実習の必要性和流れ 2. 実習Ⅰ、実習Ⅱの目的と主な内容 3. 実習Ⅰの場の利用者を取り巻く人や地域社会との関係を理解する		
	3	介護実習前の学習の内容と方法	1. 介護実習前の学習の意義と目的 2. 介護実習と各領域の学習との関係		
	4	実習Ⅰ－①に関する基礎知識	1. 通所介護のサービス内容や利用者像の理解 2. 通所介護の利用者像の理解(身体状況、ADLなど)		
	5	実習Ⅰ－①に関する基礎知識	1. 制度から通所介護について理解する(介護保険法、厚生労働省令)		
	6	実習Ⅰ－①に関する基礎知識	1. 他科目での学びを踏まえた実習目標の設定		
	7	実習Ⅰ－①に関する基礎知識	1. 実習生としてのマナー ・個人情報取り扱い ・身だしなみ、あいさつ、言葉遣い、電話のかけ方		
	8	実習Ⅰ－①に関する基礎知識	1. 実習記録や日誌のまとめ方 ・他科目で学んだ専門用語の確認、適切な文書表現 ・ロールプレイを通して実習に必要な記録の書き方を学ぶ		
	9	実習Ⅰ－①に関する基礎知識	1. 実習Ⅰ－①実習指導者による実習前オリエンテーション		
	10	実習Ⅰ－①に関する基礎知識	1. 実習計画の作成		
	11	実習Ⅰ－①直前の学習	1. 実習目標、実習計画の確認 2. 実習記録の配布 3. 実習記録作成の留意点		
	12	実習Ⅰ－①事後学習	1. お礼状作成 2. 実習後の振り返り		
	13	実習Ⅰ－①事後学習	1. 実習報告会に向けた準備		
	14	実習Ⅰ－①事後学習	1. 実習報告会に向けた準備		
	15	実習Ⅰ－①まとめ	1. 実習報告会を通じた学びの共有		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅱ		指導担当者名	大久保 悦美	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況や施設種別に応じた介護実習に取り組み、介護を学ぶ学生として求められる態度を身につける。 ・事前学習の意義と目的を理解する。 ・実習を通して利用者の生活を観察することが出来る。 ・実習において対人関係を意識したコミュニケーションをとることが出来る。 ・実習終了後のまとめ学習について理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座10 第2版 介護総合演習・介護実習 (中央法規) 福祉の職場のマナーガイドブック(全国社会福祉協議会)				
授業外学習 の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	実習Ⅰ－②に関する基礎知識	1. 施設サービスの理解と援助の視点		
	2	実習Ⅰ－②に関する基礎知識	1. 介護福祉士に必要な介護過程の視点について学ぶ		
	3	実習Ⅰ－②に関する基礎知識	1. 介護福祉士に必要なコミュニケーション技術について確認する ・プロセスレコード演習		
	4	実習Ⅰ－②に関する基礎知識	1. 実習記録や日誌のまとめ方 ・介護福祉士に必要な記録について学ぶ		
	5	実習Ⅰ－②に関する基礎知識	1. 実習記録や日誌のまとめ方 ・ロールプレイを通して記録の書き方を学ぶ		
	6	実習Ⅰ－②に関する基礎知識	1. 実習計画の作成		
	7	実習Ⅰ－②直前の学習	1. 実習目標、実習計画の確認 2. 実習課題の確認 3. 実習記録の配布及び作成の留意点		
	8	実習Ⅰ－②事後学習	1. 実習後の記録、課題の提出等確認 2. お礼状の作成 3. 実習の振り返り		
	9	実習Ⅰ－②事後学習	1. プロセスレコードから、コミュニケーション場面を振り返る 2. 相手の気持ちに寄り添ったコミュニケーションを考える		
	10	実習Ⅰ－②事後学習	1. 実習報告会の準備		
	11	実習Ⅰ－②まとめ	1. 実習報告会を通じた学びの共有		
	12	実習Ⅰ－②まとめ	1. 実習報告会を通じた学びの共有		
	13	実習Ⅰ－③に関する基礎知識	1. 訪問介護サービスの理解 2. 実習目標の検討 3. 実習書類の作成		
	14	実習Ⅰ－③に関する基礎知識	1. 訪問時のマナー ・入室、退室の仕方、掃除の仕方 ・お茶の入れ方		
	15	まとめ	1. 後期及び1年次のまとめ		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	発達と老化の理解 I		指導担当者名	三本木 茜	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う身体的、心理的、社会的な変化、高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めたライフサイクルに応じた生活を支援するための基礎的な内容の理解を深める。 ・ライフサイクルの各期における身体的・心理的・社会的特徴について基礎的な理解ができる。 ・人間の成長と発達を理解するために、発達段階や発達課題などについて学ぶ。 ・発達段階別の特徴的な疾病や障害が理解できる。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座12 第2版 発達と老化の理解(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	人間の成長と発達の基礎的知識	成長・発達の考え方		
	2	人間の発達段階と発達課題-I	発達理論		
	3	人間の発達段階と発達課題-II	身体的機能の成長と発達		
	4	人間の発達段階と発達課題-III	心理的機能の発達		
	5	人間の発達段階と発達課題-IV	社会的機能の発達		
	6	老年期の特徴と発達課題-I	老年期の定義		
	7	老年期の特徴と発達課題-II	老年期の発達課題		
	8	老化にともなうところとからだの変化と生活-I	加齢による生理機能の全体的変化		
	9	老化にともなうところとからだの変化と生活-II	感覚器系の機能の変化と生活への影響		
	10	老化にともなうところとからだの変化と生活-III	消化器系の機能の変化と生活への影響		
	11	老化にともなうところとからだの変化と生活-IV	認知機能の変化		
	12	老化にともなうところとからだの変化と生活-V	パーソナリティ(性格)の変化		
	13	老化にともなうところとからだの変化と生活-VI	老化にともなう社会的な変化と生活への影響		
	14	高齢者と健康 I	健康長寿に向けての健康		
	15	高齢者と健康 II	高齢者の症状・疾患の特徴		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	発達と老化の理解Ⅱ		指導担当者名	三本木 茜	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:○		演習:	実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響を理解する。 ・本人や家族が地域で自立した生活を継続するために必要な支援について理解する。 ・老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化と日常生活に及ぼす影響について理解する。 ・高齢者に多い疾病や老化にともなう機能低下による日常生活に及ぼす影響について理解する。 ・高齢者の健康増進・維持を含めた生活支援について理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座12 第2版 発達と老化の理解(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅰ	骨格系・筋系 粗鬆症、骨折、変形性膝関節症、関節リウマチ、サルコペニア等) (骨		
	2	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅱ	脳・神経系(パーキンソン病、脳血管疾患)		
	3	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅲ	皮膚・感覚器系(白内障、緑内障、難聴、皮膚疾患等)		
	4	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅳ	循環器系(高血圧、虚血性心疾患、不整脈、心不全、閉塞性動脈硬化症)		
	5	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅴ	呼吸器系(慢性閉塞性肺疾患、肺炎、結核、喘息)		
	6	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅵ	消化器系(消化性潰瘍、逆流性食道炎、肝硬変)		
	7	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅶ	腎・泌尿器系(前立腺疾患、慢性腎臓病、尿路感染症)		
	8	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅷ	内分泌・代謝系(糖尿病、脂質異常症、痛風)		
	9	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅸ	歯・口腔疾患(虫歯、歯周病、ドライマウス)		
	10	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅹ	悪性新生物(胃がん、肺がん、大腸がん)		
	11	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅺ	感染症(ウイルス性呼吸感染症、感染性胃腸炎)		
	12	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅻ	精神疾患(うつ病、統合失調症など)		
	13	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点ⅫⅢ	熱中症、脱水、貧血		
	14	保健医療職との連携	多職種との連携		
	15	まとめ	1. 授業の振り返りとまとめ		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	こころとからだのしくみの理解 I		指導担当者名	千葉 智子	
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。 ・移動・身じたく・食事に関連するこころとからだのしくみが理解できる。 ・心身の機能低下がおよぼす身じたく、移動、食事への影響を学び、介護実践に役立てる。 ・日常生活におけるこころとからだの変化と、観察のポイントを習得する。□ 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座11 第2版 こころとからだのしくみ (中央法規) ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版				
授業外学習 の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	移動に関連したこころとからだのしくみ	1. オリエンテーション 2. 移動に関連したこころとからだの基礎知識□ 3. 基本的な姿勢		
	2	移動に関連したこころとからだのしくみ	1. 移動に関連したこころとからだの基礎知識□ 2. ボディメカニクス		
	3	移動に関連したこころとからだのしくみ	1. 移動に関連したこころとからだの基礎知識□ 2. 移動に関連したこころのしくみ 3. 移動に関連したからだのしくみ		
	4	移動に関連したこころとからだのしくみ	1. 移動に関連したこころとからだの基礎知識□ 2. 移動に関連したからだのしくみ		
	5	移動に関連したこころとからだのしくみ	1. 心身の機能の低下が移動に及ぼす影響 2. 精神機能の低下が移動に及ぼす影響 3. 身体機能の低下が移動に及ぼす影響(骨折、ロコモティブシンドローム等)		
	6	移動に関連したこころとからだのしくみ	1. 心身の機能の低下が移動に及ぼす影響 2. 身体機能の低下が移動に及ぼす影響 (廃用症候群等) 3. 疾患にともなう機能低下		
	7	移動に関連したこころとからだのしくみ	1. 移動に関連したこころとからだのしくみ 2. 生活場面における変化の気づきと対応		
	8	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	1. 身じたくに関連したこころとからだの基礎知識 2. 身じたくのしくみとこころのしくみと精神機能の 低下が身じたくに及ぼす影響 3. メイク等の身じたくがこころに及ぼす影響		
	9	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	1. 身じたくに関連したこころとからだの基礎知識 2. 身じたくに関連したからだのしくみ(表情筋と咀嚼筋)		
	10	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	1. 身じたくに関連したからだのしくみ(目・耳・鼻の構造と機能) 2. 身体機能が身じたく の及ぼす影響 3. 生活場面における変化の気づきと対応(目・耳・鼻の変化)		
	11	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	1. 身じたくに関連したからだのしくみ(爪・毛髪・口腔の構造と機能) 2. 身体機能(爪・毛髪・口腔) の老化による変化 3. 変化の気づきと対応(爪・毛髪・口腔の老化による変化)		
	12	食事に関連したこころとからだのしくみ	1. 食事に関連したこころとからだの基礎知識 2. なぜ食事をするのか(栄養と水分等) 3. 食事に関連したこころのしくみと精神機能の低下が食事の及ぼす影響		
	13	食事に関連したこころとからだのしくみ	1. 食事に関連したからだのしくみ(口腔から食道までのしくみ、摂食と嚥下運動) 2. 身体機能の低下が食事に及ぼす影響(加齢による機能低下・病気による機能低下)		
	14	食事に関連したこころとからだのしくみ	1. 身体機能の低下が食事に及ぼす影響(加齢による機能低下・病気による機能低下) 2. 治療食について		
	15	食事に関連したこころとからだのしくみ	1. 生活場面における変化の気づきと対応(食事での観察ポイント)□ 2. 緊急性にともなう異常について 3. 食事に関する、多職種との連携□		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	こころとからだのしくみの理解Ⅱ		指導担当者名	千葉 智子	
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	介護総合マネジメント学科 1年	
授業方法	講義:○		演習:	実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。 ・排泄・入浴・睡眠に関連するこころとからだのしくみが理解できる。□ ・心身の低下がおよぼす排泄・入浴・睡眠への影響を学び、介護実践に役立てる。 ・日常生活におけるこころとからだの変化と、観察のポイントを習得する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座11 第2版 こころとからだのしくみ (中央法規) ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	1. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識 2. なぜ入浴・清潔保持を行うのか(入浴と作用) 3. 入浴・生活保持に関連したこころのしくみ、精神機能の低下が及ぼす影響		
	2	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	1. 排泄に関連したからだのしくみ(皮膚・発汗のしくみと汚れのしくみ) 2. 陰部の清潔		
	3	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	1. 身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 2. 運動機能の低下と影響		
	4	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	1. 身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 2. 膀胱留置カテーテルの管理と入浴方法 3. ストーマの管理と入浴方法		
	5	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	1. 生活場面における変化の気づきと対応 2. 皮膚の状態観察、循環器、呼吸器観察のポイント 3. 入浴、生活保持に必要な観察のポイント		
	6	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	1. 生活場面における変化の気づきと対応(全身状態の観察等) 2. 入浴・清潔保持での医療職との連携ポイント		
	7	排泄に関連したこころとからだのしくみ	1. 排泄に関連したこころとからだの基礎知識 2. なぜ排泄をするのか(正常な排泄行為) 3. 排泄に関連したこころのしくみ		
	8	排泄に関連したこころとからだのしくみ	1. 排泄に関連したからだのしくみ(尿・便排出のしくみ) 2. 人工膀胱・人工肛門のしくみ		
	9	排泄に関連したこころとからだのしくみ	1. 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 2. 精神・判断力の低下が排泄に及ぼす影響(認知症・ストレス等)		
	10	排泄に関連したこころとからだのしくみ	1. 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 2. 機能的尿失禁と膀胱尿道機能の低下による排泄障害		
	11	排泄に関連したこころとからだのしくみ	1. 排泄での観察のポイント 2. 排泄状態での観察と医療職との連携		
	12	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	1. 休息・睡眠に関連したこころとからだの基礎知識 2. なぜ睡眠をとるのか(睡眠のしくみ) 3. 睡眠の質を高める環境と生活習慣		
	13	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	1. 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 2. 休息・睡眠に影響を及ぼす心身機能の低下 3. 睡眠障害		
	14	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	1. 睡眠障害 2. 生活場面における変化に気づくためのポイント		
	15	「こころとからだのしくみ」まとめ	1. 「こころとからだのしくみ」振り返り 2. まとめ□		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	チームマネジメント		指導担当者名	三本木 茜	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	介護福祉学科科 2年	
授業方法	講義:○		演習:	実習:	実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護のみならず医療や保健等からなる包括的なチームによる実践を学ぶ。 ・チームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける。 ・組織の機能や構造について理解し、チームの構成や役割について説明できる。 ・実践力を高めるために必要な、人材育成・開発の仕組み(OJT、Off-JT等)方法について理解できる。 ・多様なキャリアを知り、自身のキャリアデザインと自己研鑽に必要な姿勢を考えることができる。 ・チームワークとは何かを理解し、そこで必要となるリーダーとフォロワーの役割について説明できる。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座1 第2版 人間の理解(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	ヒューマンサービスとしての介護サービス	1. サービスの4つの特性と介護サービス 2. 介護サービスとほかのサービスの相違点		
	2	介護現場で求められるチームマネジメント	1. マネジメントとチームマネジメント 2. 介護福祉士にチームマネジメントが求められる理由 3. 介護福祉士に期待される役割		
	3	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み	1. ケアを展開するためのチームマネジメント 2. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 3. 組織の目標達成のためのチームマネジメント		
	4	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み	1. ケア実践の場や内容に応じて変わるチーム 2. チームとメンバーの相互関係 3. 介護福祉士がかかわるチームの取り組み		
	5	チームでケアを展開するためのマネジメント	1. 情報を共有する 2. 情報を統合し方針を明確にする 3. 評価・修正の機会をつくる		
	6	チームの力を最大化するためのマネジメント	1. リーダーシップとフォロワーシップの機能 2. リーダーシップとフォロワーシップをバランスよく発揮する		
	7	介護福祉職のキャリアと求められる実践力	1. キャリアをイメージする 2. 初任期～ベテラン期に求められる実践力		
	8	介護福祉職としてのキャリアデザイン	1. キャリアパスとキャリアデザイン 2. キャリア開発を支える		
	9	介護福祉職のキャリア支援・開発	1. OJT(職務を通じた教育訓練) 2. Off-JT(職務を離れた教育訓練) 3. 自己研鑽を支える体制		
	10	自己研鑽に必要な姿勢	1. サービスの質を向上させる 2. 研修を活用する 3. キャリア開発・キャリア支援に対する姿勢		
	11	介護サービスを支える組織の構造	1. 日々の介護サービスを支える組織の存在 2. 組織の理解 3. 組織の階層構造		
	12	介護サービスを支える組織の機能と役割	1. 経営基盤の安定と法令順守・健全な組織運営 2. 理念や運営方針と事業計画の作成・共有 3. 教育・研修体制づくりと人間関係づくり		
	13	介護サービスを支える組織の管理	1. 介護業務などの管理 2. 労務管理 3. 人材の確保・育成		
	14	介護における組織の目標達成の実践	1. 組織の理念について考える 2. 委員会について考える		
	15	まとめ	振り返り・まとめ		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	応急手当と災害時における生活支援		指導担当者名	千葉 智子	
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	介護福祉学科 2年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・被災していても、個々の潜在能力が発揮できるような個別支援的かかわりを習得し、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 ・介護福祉職としての応急手当の方法を理解する。 ・被災者に対する支援の方法として、状況に応じた生活支援を理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座6 第2版 生活支援技術 I (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	生活支援の理解	1. 生活支援とチームアプローチ 2. ライフステージとチームアプローチ		
	2	応急手当について	1. 想定される事故と予防の視点		
	3	応急手当の実際	1. 応急手当の実際を想定して実践し理解する		
	4	応急手当の実際	1. 応急手当の実際を想定して実践し理解する		
	5	緊急時の対応の知識と技術	1. 想定される事故と予防の視点を理解する 2. 救急救命士との連携方法を学ぶ 3. 想定される事故と予防の視点を理解する		
	6	緊急時の対応の知識と技術	1. 想定される事故と予防の視点を理解する 2. 救急救命士との連携方法を学ぶ 3. 想定される事故と予防の視点を理解する		
	7	緊急時の対応の知識と技術	1. 想定される事故と予防の視点を理解する 2. 救急救命士との連携方法を学ぶ 3. 想定される事故と予防の視点を理解する		
	8	緊急時の対応の知識と技術	1. 想定される事故と予防の視点を理解する 2. 救急救命士との連携方法を学ぶ 3. 想定される事故と予防の視点を理解する		
	9	緊急時の対応の知識と技術	1. 想定される事故と予防の視点を理解する 2. 救急救命士との連携方法を学ぶ 3. 想定される事故と予防の視点を理解する		
	10	緊急時の対応の知識と技術	1. 想定される事故と予防の視点を理解する 2. 救急救命士との連携方法を学ぶ 3. 想定される事故と予防の視点を理解する		
	11	災害時における生活支援	1. 被災地で活動する際の心構え		
	12	災害時における生活支援	1. 災害時における生活支援(災害直後の支援)		
	13	災害時における生活支援	1. 災害時における生活支援(支援体制が整ってきたあとの支援)		
	14	災害時における生活支援	1. 災害時における生活支援(支援体制が整ってきたあとの支援)		
	15	災害時における生活支援	災害時の多職種協働		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	介護過程Ⅲ			指導担当者名	大久保 悦美
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				実務経験: 有
開講時期	前期		対象学科学年	介護福祉学科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種との関係性や、チームとして介護過程を展開する意義・方法を理解する。 ・事例を通して、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につなげる。 ・ケアマネジメントの全体像を理解し、ケアプランと介護計画の関係性を正しく理解することができる。 ・チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性を理解する。 ・事例を用い、アセスメントや介護計画立案、チームアプローチ等に必要な視点や具体的な方法を理解する。 ・実習における対象者の介護過程を通し、心身の状況に応じた支援に必要な介護過程の展開を理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座9 第2版 介護過程 (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	介護過程とケアマネジメント	1. 介護過程とケアマネジメントの関係性		
	2	介護過程とチームアプローチ	1. チームアプローチにおける介護福祉士の役割		
	3	介護過程の展開の理解	1. 事例を基に介護過程について理解を深める		
	4	介護過程の展開の理解	1. 事例を基に介護過程について理解を深める		
	5	介護過程の展開の理解	1. 事例を基に介護過程について理解を深める		
	6	介護過程の展開の理解	1. 事例を基に介護過程について理解を深める		
	7	介護過程の展開の理解	1. 事例を基に介護過程について理解を深める		
	8	介護過程の展開の理解	1. 事例を基に介護過程について理解を深める		
	9	介護過程の展開の理解	1. 事例を基に介護過程について理解を深める		
	10	介護過程の展開の理解	1. 事例を基に介護過程について理解を深める		
	11	介護過程の展開の理解 (介護実習Ⅱ)	1. 介護実習Ⅱ対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開		
	12	介護過程の展開の理解 (介護実習Ⅱ)	1. 介護実習Ⅱ対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開		
	13	介護過程の展開の理解 (介護実習Ⅱ)	1. 実習Ⅱ対象者の介護過程の振り返り		
	14	介護過程の展開の理解 (介護実習Ⅱ)	1. 実習Ⅱ対象者の介護過程の振り返り		
	15	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	介護過程Ⅲ			指導担当者名	大久保 悦美
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	介護福祉学科 2年	
授業方法	講義:○		演習:	実習:	実技:
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種との関係性や、チームとして介護過程を展開する意義・方法を理解する。 ・事例を通して、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につなげる。 ・ケアマネジメントの全体像を理解し、ケアプランと介護計画の関係性を正しく理解することができる。 ・チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性を理解する。 ・事例を用い、アセスメントや介護計画立案、チームアプローチ等に必要な視点や具体的な方法を理解する。 ・実習における対象者の介護過程を通し、心身の状況に応じた支援に必要な介護過程の展開を理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座9 第2版 介護過程 (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	16	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	17	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	18	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	19	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	20	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	21	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	22	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	23	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	24	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	25	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	26	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	27	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	28	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
29	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究			
30	まとめ	1. 前期まとめ			
31					
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	介護過程Ⅳ		指導担当者名		大久保 悦美
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				実務経験： 有
開講時期	後期		対象学科学年		介護福祉学科科 2年
授業方法	講義：○		演習：		実習： 実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。 ・実習における対象者の介護過程を振り返り、心身の状況に応じた本人主体の支援について理解を深める。 ・映像教材を通し、本人の能力を活かした、本人主体の生活が継続できるための介護過程が展開できる。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座9 第2版 介護過程 (中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	2	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	3	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	4	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	5	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究		
	6	介護過程の展開の理解	1. 対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程		
	7	介護過程の展開の理解	1. 対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程		
	8	介護過程の展開の理解	1. 対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程		
	9	介護過程の展開の理解	1. 対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程		
	10	介護過程の展開の理解	1. 対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程		
	11	介護過程の展開の理解	1. 対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程		
	12	介護過程の展開の理解	1. 対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程		
	13	介護過程の展開の理解	1. 対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程		
	14	介護過程の展開の理解	1. 対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程		
	15	まとめ	1. 後期及び2年間のまとめ		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅲ			指導担当者名	大久保 悦美
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				実務経験： 有
開講時期	前期		対象学科学年	介護福祉学科 2年	
授業方法	講義：	演習：○	実習：	実技：	
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習において、利用者の自立支援や人としての尊厳を支える介護過程の展開が適切にできる。 ・介護実習Ⅱのねらい・目的を理解し、授業で学んだ知識と技術を統合した実習ができる。 ・担当ケースのアセスメントから利用者のニーズ(生活課題)を明らかにし、介護計画の立案・実施・評価ができる。 ・事例研究を意識した実習の進め方の理解、考察を行い、事例研究をまとめることができる。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座10 第2版 介護総合演習・介護実習(中央法規) 福祉の職場のマナーガイドブック(全国社会福祉協議会)				
授業外学習 の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	実習Ⅱに関する基礎知識	1. 実習Ⅱのねらいを理解する 2. 実習Ⅱのモデルを具体的にイメージし、理解を深める 3. 実習Ⅱ目標の検討		
	2	実習Ⅱに関する基礎知識	1. 介護過程の展開に必要な知識・技術を確認する		
	3	実習Ⅱに関する基礎知識	1. 実習計画の作成		
	4	実習Ⅱに関する基礎知識	1. 演習を通して、担当する対象者を想定した介護過程を展開する		
	5	実習Ⅱに関する基礎知識	1. 演習を通して、担当する対象者を想定した介護過程を展開する		
	6	実習Ⅱに関する基礎知識	1. 実習目標、実習計画の確認 2. 実習課題の確認 3. 実習記録の配布、留意点の確認		
	7	実習Ⅱ 実習中の学習	1. 実習の取り組み、介護過程について確認する		
	8	実習Ⅱ 実習中の学習	1. 実習の取り組み、介護過程について確認する		
	9	実習Ⅱ事後学習	1. 実習後の記録、課題の提出等確認 2. お礼状の作成 3. 実習の振り返り		
	10	実習Ⅱ事後学習	1. 実習課題(介護過程)の振り返り		
	11	介護実践の科学的探究	1. 事例研究口 ・事例研究とは ・事例研究の進め方		
	12	介護実践の科学的探究	1. 事例研究を通して実習Ⅱの支援を振り返る		
	13	介護実践の科学的探究	1. 事例研究を通して実習Ⅱの支援を振り返る		
	14	介護実習Ⅰ－④に関する基礎的学習	1. 地域密着型サービスの理解 2. 実習Ⅰ－④目標の検討		
	15	まとめ	1. 前期実習のまとめ		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅳ		指導担当者名	大久保 悦美	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	介護福祉学科 2年	
授業方法	講義:	演習:○	実習:	実技:	
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習を振り返り、知識や技術を実践と結びつけ統合することにより、自己の課題を明確にできる。 ・介護実習の様々な場面に対応できる能力を養うことで、専門職としての態度を身につける。 ・多様な介護現場で活躍できる介護福祉士として、必要なマナー、知識、理論等を統合、応用し実習に取り組む。 ・質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義と方法を理解する。 ・介護実習の振り返りを通して自身の介護観を形成し、専門職として技術・知識を高める必要性を理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A、 ・79～70点…B、 ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座10 第2版 介護総合演習・介護実習(中央法規) 福祉の職場のマナーガイドブック(全国社会福祉協議会)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	介護実習Ⅰ－④に関する基礎的学習	1. 実習Ⅰ－④目標再確認 2. 実習記録や日誌のまとめ方 ※記録の添削を通して記録の書き方について確認する		
	2	介護実習Ⅰ－④に関する基礎的学習	1. 実習計画の作成		
	3	介護実践の科学的探究	1. 事例研究を通して実習Ⅱの支援を振り返る		
	4	介護実践の科学的探究	1. 事例研究を通して実習Ⅱの支援を振り返る		
	5	介護実践の科学的探究	1. 事例研究を通して実習Ⅱの支援を振り返る		
	6	介護実践の科学的探究	1. 校内事例研究発表会		
	7	介護実践の科学的探究	1. 校内事例研究発表会		
	8	介護実習Ⅰ－④に関する基礎的学習	1. 実習目標、実習計画の確認 2. 実習課題の確認 3. 実習記録の配布、留意点の確認		
	9	実習Ⅰ－④事後学習	実習Ⅰ－④を振り返り、地域における施設の役割を理解する		
	10	実習Ⅰ－④事後学習	実習Ⅰ－④を振り返り、地域における施設の役割を理解する		
	11	実習Ⅰ－④事後学習	実習Ⅰ－④を振り返り、地域における施設の役割を理解する		
	12	総合的な演習の展開	1. 事例を用いた総合的な演習の展開		
	13	総合的な演習の展開	1. 事例を用いた総合的な演習の展開		
	14	総合的な演習の展開	1. 事例を用いた総合的な演習の展開		
	15	まとめ	1. 後期及び2年間のまとめ		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	ターミナルケア		指導担当者名	三本木 茜	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	介護福祉学科科 2年	
授業方法	講義:○	演習:	実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。 ・終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する。 ・人生の最終段階に関する「死」のとらえ方を理解する。 ・人生の最終段階にある人の介護の視点を理解する。 ・家族・介護職が「死」を受け止める過程を理解する。 ・終末期における医療職との連携を理解する。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	<p>最新・介護福祉士養成講座7 第2版 生活支援技術Ⅱ(中央法規) 最新・介護福祉士養成講座11 第2版 こころとからだのしくみ(中央法規)</p>				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方	1. 死の意味と概念について考える 2. 生きることの意味について考える		
	2	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方	1. 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方 2. 生物学的・法律的・臨床的な死についてのとらえ方 3. 尊厳死(リビングウィル、インフォームドコンセント)		
	3	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方	1. 尊厳死(リビングウィル、インフォームドコンセント) 2. 看取りにかかわる人の価値観(事例を通して考える)		
	4	看取りにかかわる人の価値観	1. その人らしく迎える「死」 2. 看取りにかかわる人の価値観(事例を通して考える)		
	5	終末期(ターミナル期)	1. 終末期(ターミナル期)について 2. ターミナルケアのポイント		
	6	人生の最終段階の意義と介護の役割	1. 人生の最終段階におけるケアの意味 2. アドバンス・ケア・プランニングについて 3. 事前指示		
	7	「死」に対するこころの理解	1. 「死」に対するこころの変化 2. キューブラー・ロスの死に対する五つの段階 3. 家族が「死」を受容できるための支援		
	8	人生の最終段階に関する「死」の とらえ方におけるアセスメント	1. 人生の最終段階におけるケアがめざすもの 2. 全人的苦痛と痛みについて		
	9	終末期から危篤状態、 死後のからだの理解	1. 身体機能の特徴(終末期から臨周期における身体機能の変化) 2. 臨終期の対応 3. 死後のからだの変化		
	10	人生の最終段階における介護	1. 死をむかえる人の介護 2. 死が近づいたときの身体的症状への対応 3. 読み聞かせを通して終末期を理解する		
	11	人生の最終段階における介護	1. 死をむかえる人の介護 2. 死が近づいたときの身体的症状への対応 3. 読み聞かせを通して終末期を理解する		
	12	人生の最終段階における介護	1. 死亡診断書 2. 死後のからだを整える(死後のケア)		
	13	人生の最終段階における介護	1. 死後のからだを整える(死後のケア) 2. エンゼルメイク		
	14	亡くなったあとの介護	1. 遺族へのケア 2. 職員へのケア(デスカンファレンス)		
	15	終末期における医療職との連携	1. 終末期における多職種の役割 2. 在宅医療(在宅死)と多職種連携		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	医療的ケア I		指導担当者名	千葉 智子	
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	介護福祉学科 2年	
授業方法	講義:○		演習:	実習:	実技:
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士が、安全で適切にたんの吸引・経管栄養を行うために必要な基礎を身につける。 ・医行為に関する法律、倫理、医療従事者との連携について理解する。 ・安全な療養生活の提供方法について理解する。 ・清潔保持と感染予防について理解することで、自己の健康管理や感染予防ができる。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15 第2版 医療的ケア(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	医療的ケア	1. 医療的ケアとは 2. 医療提供体制の変遷 3. 社会福祉士及び介護福祉士法の改正		
	2	人間と社会	1. 個人の尊厳と自立 2. 医療の倫理 3. 利用者や家族の気持ちの理解		
	3	保健医療制度とチーム医療	1. 保健医療に関する制度 2. チーム医療と介護職員との連携		
	4	安全な療養生活(1)	1. リスクマネジメント、ヒヤリハット 2. 痰の吸引における安全な実施		
	5	安全な療養生活(2)	1. リスクマネジメント、ヒヤリハット 2. 経管栄養における安全な実施		
	6	安全な療養生活(3)	1. 救急蘇生法		
	7	安全な療養生活(4)	1. 救急蘇生法		
	8	清潔保持と感染予防(1)	1. 感染予防 2. 職員の感染予防		
	9	清潔保持と感染予防(2)	1. 療養環境の清潔、消毒法 2. 滅菌と消毒		
	10	健康状態の把握(1)	1. 健康状態の把握 2. バイタルサイン		
	11	健康状態の把握(2)	1. 身体・精神の健康 2. 急変状態について		
	12	健康状態の把握(3)	1. 高齢者によくみられる身体症状の特徴 ～脱水、浮腫、痒み、痛み、発熱、嘔吐、倦怠感～		
	13	医療的生活支援(1)	1. 創傷の処置とガーゼ交換 2. 服薬に関する支援 3. 清潔に関する支援(爪切り、口腔ケア、耳垢の除去)		
	14	医療的生活支援(2)	1. 排泄に関する支援 ・パウチにたまった排泄物の除去 ・自己導尿		
	15	補足及びまとめ	授業の補足及びまとめ		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	医療的ケアⅡ		指導担当者名	千葉 智子	
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	介護福祉学科 2年	
授業方法	講義:○		演習:	実習:	実技:
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士が、安全で適切に痰の吸引を行うために必要な基礎を身につける。 ・医行為に関する法律・倫理・医療従事者との連携について理解する。 ・安全で適切なたんの吸引の方法・留意点について理解する。 ・安全で適切なたんの吸引の技法を身につける。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15 第2版 医療的ケア(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	1. 呼吸のしくみとはたらき 2. いつもと違う呼吸状態		
	2	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	1. たんの吸引とは 2. 人工呼吸器と吸引		
	3	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	1. こどものたんの吸引 2. 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意。		
	4	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	1. 呼吸器の感染と予防(吸引と関連して) 2. たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認		
	5	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	1. 急変・事故発生時の対応と事前対策		
	6	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	1. たんの吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 2. たんの吸引に伴うケア		
	7	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	1. 吸引の技術と留意点		
	8	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	1. 吸引の技術と留意点 2. 報告及び記録		
	9	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	1. 吸引の技術と留意点 2. 報告及び記録		
	10	たんの吸引(口腔内)	1. 口腔内吸引		
	11	たんの吸引(口腔内)	1. 口腔内吸引		
	12	たんの吸引(鼻腔内)	1. 鼻腔内吸引		
	13	たんの吸引(鼻腔内)	1. 鼻腔内吸引		
	14	たんの吸引(気管カニューレ内)	1. 気管カニューレ内吸引		
	15	たんの吸引(気管カニューレ内)	1. 気管カニューレ内吸引		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					

授業計画(シラバス)

科目名	医療的ケアⅢ		指導担当者名	千葉 智子	
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	介護福祉学科 2年	
授業方法	講義:○		演習:	実習:	実技:
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士が、安全で適切に経管栄養を行うために必要な技法を身につける。 ・安全で適切な経管栄養の方法・留意点について理解する。 ・安全で適切な経管栄養の技法を身につける。 				
評価方法 評価基準	<p>学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格) 				
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15 第2版 医療的ケア(中央法規)				
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかりと行うこと。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	1	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	1. 消化器系のしくみとはたらき		
	2	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	1. 消化・吸収とよくある消化器の症状		
	3	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	1. 経管栄養法とは 2. 注入する内容に関する知識		
	4	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	1. 経管栄養実施上の留意点 2. こどもの経管栄養について		
	5	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	1. 経管栄養に関する感染と予防 2. 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意		
	6	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	1. 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 2. 急変・事故発生時の対応と事前対策		
	7	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	1. 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 2. 経管栄養に必要なケア		
	8	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	1. 経管栄養の技術と留意点		
	9	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	1. 経管栄養の技術と留意点		
	10	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	1. 経管栄養の技術と留意点 2. 報告及び記録		
	11	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」実施手順	1. 経管栄養の技術と留意点 2. 報告及び記録		
	12	経管栄養(胃ろう)	1. 胃ろうの経管栄養		
	13	経管栄養(胃ろう)	1. 胃ろうの経管栄養		
	14	経管栄養(経鼻)	1. 経鼻経管栄養		
	15	経管栄養(経鼻)	1. 経鼻経管栄養		
	16				
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> ・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。 					